

令和2年度市民意識調査項目候補（一般）

問No.	質問	H28	国	県	数値 目標	調査したいこと
1	各分野において男女の地位は平等になっているか	○	○	○	○	意識の変化
2	男女平等に関する法律・用語等の認知度	○	○	○	○	周知を図るべき分野
3	「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方への賛否	○	○	○	○	固定的観念の変化
4	家庭内の仕事の分担状況（理想）	○	○			性別による差異、固定的観念の変化
5	家庭内の仕事の分担状況（現実）	○		○	○	女性の負担の現状
6	女性が職業を持つことについて	○	○	○		離職の要因分析
7	問6を答えた理由	○		○		
8	女性が増えるといいと思う職業や役職		○	○		社会的ニーズ
9	各分野で女性のリーダー登用が進んでいない理由	○		○		障害（物的、意識的）の分析
10	男女が働きやすい環境に必要なもの	○		女性のみ		取り組むべき施策、ニーズ
11	男性が育児休暇・介護休暇を取得することについて	○				取り組むべき施策、ニーズ
11-1	男性が育児休暇・介護休暇を取得するために必要なこと	○				
12	「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度（希望と現実）	○	○	○		理想と現実の乖離状況
13	自身のワーク・ライフ・バランスの状況	○				現状
14	地域活動への参加状況	○		○	○	現状
14-1	地域活動に参加しなかった理由	○				障害（物的、意識的）の分析
15	地域における避難所運営に必要なもの					現状、ニーズ
16	子どもに期待する進学先	○				性別による差異、固定的観念の変化
17	教育現場において男女共同参画の推進に必要なもの					取り組むべき施策、ニーズ
18	夫婦・恋人間の暴力等に該当すると思うこと	○	○			意識の変化
19	恋人・配偶者からの暴力を受けた経験	○			○	現状
19-1	どのような暴力だったか	○				
19-2	暴力を受けたときに誰、どこに相談したか	○				
19-2-1	相談しなかった場合、なぜしなかったか	○				
20	性的少数者関係の言葉の認知度			○		現状
21	身体の性、心の性、性的指向に悩んだことがあるか					現状
22	性的少数者は生活しづらいと思うか					取り組むべき施策、ニーズ
22-1	その理由					
22-2	生活しやすい社会の実現のために必要な対策					
23	同性パートナーシップ制度は必要だと思うか					ニーズ
24	身近な人からLGBTを打ち明けられたら受け入れられるか			○		啓発の必要性
25	市の男女共同参画の取り組みの認知度	○		○	○	周知を図るべき分野
26	男女共同参画の形成のために市が力を入れていくべきこと	○	○	○		取り組むべき施策、ニーズ

※ 問No. は新規追加項目

前回調査から外した項目

質問	外した理由
女性が働くうえで障害となるもの	問9や問10で把握できるため
自己都合での離職、転職の有無 自己都合での離職、転職した理由	会社、雇用形態、給与などが理由の場合、施策への反映が難しい。出産、育児などで望まない離職、転職だった場合は問10で把握するため
子どもの性別による望ましい育て方	全体の約6割が性別にとらわれずに育てる方が良いと回答しており、意識が浸透しつつあるため
非就業者の今後の就業意向 就業したい理由 希望する就業形態 就業する上で困っていること	就業形態はデータから施策への反映が難しい。困っていることは問10で把握するため
メディアにおける性・暴力や性別役割分担の表現についての問題の有無 問題がある場合、どのような点で問題か	データから施策への反映が難しいため
人権が尊重されていないもの	当事者以外も選択する可能性があり、当事者の声は他の設問で把握するため

令和2年度市民意識調査項目候補（高校生・中学生）

問No.	質問	H28	調査したいこと
1	性別は	○	
2	家庭・学校・社会における男女の地位は平等になっているか	○	市民意識調査との比較
3	「女らしくしなさい」「男らしくしなさい」と言われることはあるか	○	家庭内の固定的観念の変化
3-1	誰から言われたか	○	家庭内の固定的観念の変化
4	家庭内での手伝いの状況	○	家庭内での役割分担状況
5	日常生活における男女の役割分担についてどう思うか	○	家庭内の固定的観念の変化
6	希望する進学先	○	意識の変化、市民意識調査との比較
7	理系、文系の進学について		教育における固定的観念の把握
7-1	その理由		
8	「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について	○	固定的観念の変化、市民意識調査との比較
9	女性が職業を持つことについてどう思うか	○	離職要因となる潜在的意識の調査
10	将来の暮らしにおける仕事、家庭、地域・個人の何を優先したいか		性差の把握
11	自分がリーダーや管理職になりたいと思うか	○	性差の把握
11-1	なりたいと思う理由	○	
11-2	なりたくないと思う理由	○	
12	交際相手との間の暴力等に該当すると思うこと	○	意識の変化、市民意識調査との比較
13	性的少数者関係の言葉の認知度		市民意識調査との比較、啓発の必要性
14	なにで性的少数者を学んだか		情報源
15	学校で性的少数者に関する取り組みはあったか		学校における取り組み
16	最近性的少数者の情報を見聞きした媒体はなにか		情報源、啓発媒体
17	身近な人からLGBTを打ち明けられたら受け入れられるか		市民意識調査との比較、啓発の必要性
18	男女共同参画社会の実現のために市が力を入れていくべきこと	○	取り組むべき施策、ニーズ

※ 問No. は新規追加項目

前回調査から外した項目

質問	外した理由
情報源となるメディア	調査結果のイメージができるため
職業を選ぶときの各条件をどのくらい大切に考えるか	中学生で見られた性差は、高校生になると解消されたため
勉強する理由	中高生どちらも希望する仕事に就きたいが勉強する理由に上がっており、性別による差もあまりなく、データの活用が難しいため